

を同属に次のごとく追加した。

1. *S. triangularifolium*, ミドリハナワラビ。大島固有。二次林に稀。アカハナワラビに似るがより小型で、冬期裸葉は紅変しない。
2. *S. japonicum* var. *silvicola*, ゴジンカハナワラビ。大島固有。母種のオオハナワラビとシチトウハナワラビの中間形で、両者の混生地にもみ生じ、雑種とも考えられる。
3. *S. ternatum* var. *pseudoternatum*, アカフユノハナワラビ。東北、関東、中部地方に稀、大島の二次林に稀。母種のフユノハナワラビとアカハナワラビの混生地のみ生じ、裸葉形は前者に似、冬期は後者と同様裸葉は紅変する。両者の雑種とも考えられる。
4. *S. ×argutum*, ハブハナワラビ。大島固有。二次林にごく稀。胞子是不稔。裸葉の形質よりオオハナワラビ (n=135) と、ミドリハナワラビ (n=45) の雑種と推定した。
5. *S. ×elegans*, アカネハナワラビ。大島固有。二次林にごく稀。胞子是不稔。裸葉の形質よりオオハナワラビ (n=135) と、アカハナワラビ (n=45) の雑種と推定した。
6. *S. ×pulchrum*, アンコハナワラビ。大島固有。二次林に稀。胞子是不稔。裸葉の形質よりシチトウハナワラビ (n=135) と、アカハナワラビ (n=45) の雑種と推定した。

□池上義信 (監修), 石沢 進 (編): 新潟県植物分布図集, 第3集 17+438 pp. 1982. 植物同好じねんじょ会, 新潟, ¥5,500. 地方出版物としては広島県植物図選と一二を競う良書であるがともに分布図は金井方式を採用していることが著しく、前者は図集であるのに対し、こちらは地図集であると共に産地を詳記するの差がある。今度出たのは第3集で、100種類を網羅している。今迄のものと大差はない。披いてみると、種類に依って甚だ分布を異にしているのがわかる。たとえば、アベマキヤノウルシは県北にのみ産し、ツルグミヤマトグサは佐渡にのみ産して県の主要部には産地がないなど、まことに不思議な分布を示す。巻末にも石沢進氏が種々の分布型を26型も挙げているが、これも分布図を確認することで生れた産物と思う。しかし、新潟は県が広く、種々の種類が丁度分布の限界に臨むものが多いので、勢いその分布にはきわどい気候や地形の違いによって遮断されるものがしばしばであるために、その表示する分布型は種々となりうることも考慮する必要があるであろう。それはともかく、このような努力を多とし、益々充実されんことを希望して止まない。

(前川文夫)